



希望の鐘 The Bell of Hope



The Y's Men's Club of Kawagoe
〒350-0046 川越市菅原町 7-16

川越ワイズメンズクラブ会報

No. 21-11

5月号

発行 2020年5月9日

Chartered 1998

クラブ会長主題 「20周年を次の20年へ!!」
 国際会長主題 “Building Today for a Better Tomorrow”
 「より良い明日のために今日を築く」
 アジア太平洋地域会長主題 “Action” 「アクション」
 東日本区理事主題 「勇気ある変革、愛ある行動！」
 “Innovation with courage, action with heart!”
 関東東部部長主題 「紡ぐ ワイズのこころ」

会長 吉野 勝三郎
 副会長 松川 厚子
 会計 山崎 純子
 書記 利根川 太郎

5月の聖書

どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気良く祈り続けなさい。
 (エフェソの信徒への手紙 6章 18節)

Pray in the Spirit on all occasions with all kinds of prayers and requests. With this in mind, be alert and always keep on praying for all the saints.
 (Ephesians 6:18)

2020年4月の統計 (4月30日)

在籍11名 コロナウイルス感染防止のため
 中止

2020年 5月 例会予告

日時：5月16日(土) 16:00~17:00
 会場：それぞれがネットミーティングに参加できる
 場所から
 5月例会はコロナウイルス感染防止のため、Zoomを用いたネットミーティングでの会議とします。

4月例会報告

利根川 太郎

・中止により報告事項はありません

会長メッセージ

川越ワイズメンズクラブ 会長 吉野 勝三郎

今回のコロナ禍では、ワイズの活動にもさまざまな支障が出ています。皆さん、いかがお過ごしでしょうか。幸い、私は元気しております。先日は、どうしても渋谷に出かける必要があり、電車を避けて、車で行ったところ、高速はノンストップで、地下鉄で行くより短時間で目的地に着くことができ、びっくりしました。

ところで、COVID-19 関連では、アフリカの情報に接することは少ないですが、過日、ある新聞記事に目が留まりました。その記事によると、アフリカのある国では毎年マラリヤでは COVID-19 以上の数の人が亡くなっているのに、国民に対してまったく行動規制を行っていないにも拘わらず、今回だけ、厳しい行動規制が布かれ、特に経済活動が大きく制限されていることに対し、国民の不満が募っているというのです。

ご存知のように、マラリヤに対しては、ロールバック・マラリヤとして、ワイズが世界的な撲滅運動を支援しています。しかし、空気感染の肺炎菌と、蚊が媒介して伝染するマラリヤでは対策が異なります。我々は、空気を吸って酸素を取り込み、呼吸

で二酸化炭素を排出することで生命を維持しています。このサイクルが止まればおしまいです。そのため今回のコロナウイルスには人工呼吸器(ventilator)がとても重要です。

私は、川越に通勤するようになるまで、29年間酸素会社に勤務しました。酸素は製鉄用など、産業界で大量に消費されますが、医療用にも多く使われています。私は人工呼吸器や酸素吸入装置の輸入・販売に関わったことがあります。昨今のマスコミの報道を見たり聞いたりしていると、その当時のことを思い出します。

次年度の川越クラブのメンバーでは、私が最年長者となります。私も十分注意しますが、皆さんも、くれぐれもコロナ禍に巻き込まれないように注意して下さい。自衛しかありません。私の現在の日課は、午前6:25のTV体操で一日を始めて、3度の食事、適度の散歩とinternetによる業務の後、午後9:30就寝です。近くに借りている畑に野菜の成長を見に行く頻度が増えました。16日にzoomで皆さんにお会いするのを楽しみにしています。

YMCA報告

河合今日子

<新型コロナウイルスによる感染症拡大
防止対応に伴う事業実施状況について>

政府による緊急事態宣言の延長について各種報道等情報がございますが、埼玉県が発信情報に基づき、引き続き地域での足並みを揃えた感染症拡大の防止に努めるべく、各事業実施におけるスケジュールを再調整いたしました。

事業所ごとの実施状況一覧を以下に記載いたします。

～所沢センター～

▽成人水泳、子ども水泳、成人フロア、子どもフロア、成人英会話、子ども英会話、クローバー、ブリスカール、Kids Academy

⇒5/31(日)まで中止。6/1(月)から再開予定。

○小規模保育室こぐま、キッズクラブ

⇒ 行政通知に準じて実施中。

～浦和センター～

○放課後等デイサービス

⇒ 行政通知に準じて実施中。

▽成人英会話、子ども英会話、成人絵画、子どもアート

⇒ 5月末まで中止。6月から再開予定。

～川越センター～

○放課後等デイサービス

⇒ 行政通知に準じて実施中。

▽成人英会話、子ども英会話

⇒ 5/31(日)まで中止。6/1(月)から再開予定。

～こばと児童館～

○行政通知に準じて開館並びに事業実施をします。
※詳しくは「所沢市立こばと児童館」のホームページをご確認ください。

所沢市立こばと児童館

⇒ <http://www.saitamaymca.org/kobato/>

<Yの仲間とラジオ体操のお誘い>

クローバークラブでは、学校がない中で、生活リズムが乱れているというお話をよく聞きます。

私たちYMCAのリーダー、その家族も同様の状況の中で、夏休みのように朝のラジオ体操をしようと5月より毎日ZOOMを使った体操をしています。

各自でラジオ体操をするよりも、ZOOMにつないで、みんなの顔も見える中で行うとモチベーションもUPしてきます。毎日違ったコスプレで登場というリーダーもいますので、毎朝の楽しみにもなっています。

朝早く起きて、一日の良いスタートを切りませんか? 下記のリンクもしくはIDからご参加できますので、ZOOMの使い方に慣れるという意味でも、よろしければ是非ご利用ください。

「Yの仲間とラジオ体操」

・2020年5月11日-31日 6:30- 毎日

・Zoom ミーティングに参加する

<https://us02web.zoom.us/j/82679245198?pwd=ei9PYlJ3VVRzUHR0SGVZVTFGZVc4dz09>

ミーティング ID: 826 7924 5198

パスワード: radio

*YMCAのメンバー、ご家族、リーダー向けに自由にご参加いただけるものとなっています。

*ラジオ体操の曲はこちらから流しますので、ラジオのご用意は必要ありません。

第9回国際大会でのポール・ウィリアム・アレキサンダーの基調講演の記録から

「なぜ私たちは、排他的であるべきなのか」

原題: “Why be so exclusive?” 1930年

近年、団体をつくるということは、世界の重要な「屋内スポーツ」のひとつとなっています。団体をつくる上で大切なことの一つは、そのメンバーが何か他の団体にはない特別なものを持っているということです。それが原因か結果かは別として、メンバーをメンバーでない人々から区別する特別なものがなければ、団体は成り立ちません。世界中の多くの都市で、ワイズメンズクラブは、最も排他的なクラブとみなされています。

しかし、私たちは、この排他性を、加入反対の権利

を不当に行使するために利用しようとしているのではありません。私たちは、メンバーになりたい人を意味もなく拒絶したいのではありません。私たちの考え方は、最も民主主義的だと広く知られているにもかかわらず、実は伝統的に排他的な組織と通じるところがあります。

軍隊を例にとってみましょう。戦争中、何千という医者が日夜を問わず入隊希望者の身体検査を行っていました。何故でしょうか。健康的に軍隊に適さない者を除外するためです。学校の場合はどうでしょうか。試験もせず、生徒達の成績を記録しない学校があると聞いたことはありません。それは、その学校で意義のある生活を送ることがその学生にとって不可能であるような場合を排除するためです。教会はどうでしょうか。教会は、それぞれの信条、教義、教理を持っており、入会希望者に「これこれの信条をお持ちでない方は、入会できません。」と言います。それによって、教会の信条を受入れない人々、すなわち霊的にその教会と合わない人々は、入ることができません。

しかし、ワイズメンの皆さん、ワイズマン（この文章を通して私が「ワイズマン」と言うときは、名称としてのワイズマンのみならず、その名に相応しい実体としてのワイズマンをも意味していることを覚えていて下さい。）は、このようなことに興味は、ありません。その人が身体頑健な人か、虚弱な人か、大学卒か、自分で勉強した人か、ある特定の宗教を信じる人か否か、リンカーンを運転する人か、市街電車で通勤する人か、重役なのか用務員なのか、表通りに住むのか、路地裏に住むのかは、全く問題にしていません。

ワイズメンは、こういった資格よりもはるかに貴重で、はるかに稀なものを要求しています。だから、私たちは、より排他的だということができます。ワイズメンズクラブの会員の資格は、人格なのです。「自己犠牲に基づく利他主義」という形で表れる理想主義なのです。ワイズメンは、自分の人生の目的を、仕えられることではなく、仕えることに置く者でなければなりません。

さて、現状を率直に見てみましょう。他の人にいい加減なことを言えないし、自分たちのことをいい加減に考えるのは愚かです。もし、ある人がビジネス上のお付き合い、社交面あるいは健康面で得られるもの、あるいは個人としての利益を求められるのであれば、そういったもの（真の仲間が得られるという利益は、例外かもしれませんが）をふんだんに提供するように作られた素晴らしい団体が他にあります。しかし、人類に役立つ機会を広げることが求めるのなら、私たちの団体は、その機会に最も豊に恵まれているでしょう。

話を整理させていただきます。私たちは、理想主義をワイズの独占物だと主張しているのではありません。私たちは、滅私や利他主義を買占めることを目指している団体ではありません。クラブの会員全部が水泳選手だからといって、水泳選手が全員このクラブに属しているわけではないのです。

ワイズメンは、他の多くの団体と、その規模、財政、

権威、認知度等々において比較しようとは望みません。

しかし、絶対負けることを恐れる必要がない基盤が唯一つあります。それは、理想という点であります。私は、ワイズメンズクラブほど団体としての理想、そして、その会員一人ひとりの理想に重点を置き、熱心にそれを育む団体はないと思います。少なくともこの点は、私たちが立っている一つの卓越した基盤です。私たちを鼓舞させ、導く、理想のたいまつを、謙遜して隠そうとすることは、何と愚かな、破壊的なことでしょうか。

私たちの国際協会が8年前に誕生したアトランティックシティのコンベンションホールに、ふたつの巨大な旗が掲げられていました。ひとつには、「若者は幻を見る」という銘が書かれてあり、もうひとつには「幻がなければ民はちりぢりになる」とありました。このふたつの言葉は、私たちのワイズメン運動という布を織りなす縦糸と横糸になっています。幻をつかみ、ニーズを感じ取り、衝動を感じ、ひらめきを活かす力の無いものは、ワイズメンになる資格がありません。

それは、人材こそ私たちの誇りであるという、ワイズにしか見られない基準を大切にしたいからです。この基準こそ、世界中のワイズメンズクラブが、優れたメンバーの資質として抱いてきたと言われる個人としてのそして団体としての理想主義なのです。新しいメンバーを迎えるために、あるいは古くからのメンバーを引き止めるために、この根本的な必要条件である理想主義をほんの1%でも割り引くことは、私たちの運動の心臓部に対する一撃を意味するのです。

ワイズマンであることは、その行動が自己犠牲の上に成り立つ理想によって動機づけられている理想主義者であることを意味します。

すべてのワイズマンは、YMCAは、世界中で明日の市民である青少年を大切にする、教会に次いで大きな人格の形成機関であることを知っています。YMCAは、学校や大学に次ぐ大きな教育機関でもあります。YMCAは、体育教育や体の発達において世界をリードする存在です。YMCAは、また、異なる信条、カースト、文化という形で立ちはだかる世界中の壁を打ち倒すことにおいて誰にも引けをとりません。YMCAは、ほとんどあらゆる国において、その働きによって、国と国との間を、民族と民族の間を引き裂く誤解や偏見に反対し、そしてそのために、常に愛国心を決して非難せずと称え、世界平和のための力強い原動力となっています。

ワイズマンの中心的な目的は、その目的に関する声明書に示されているとおり、YMCAが提供しているプログラムの全てのフェーズにおいてこれを推進し、個人としての、そして団結した努力によって積極的に、勤勉に奉仕することです。

ワイズマンであることは、YMCAに尽くすことを意味します。

それは、必ずしも時代遅れの神学的教理を受け入れることではありません。YMCAの土台である目的に真摯に共感し、それに献身することであり、それをそれぞれの地でまた、国際的に実現することです。

私たちのエンブレムを構成している3角形の上辺に「インターナショナル」という文字が入っていますが、この文字に、ワイズの友愛がおよぶ範囲とワイズの目的の広さが表されています。

私たちの世界展望委員会等は、「人は、その視野の広さで測られる」という格言を広めてきました。ワイズメンが赦すことができないのは、世界の状況や他の国や人々の問題に時間も費やさず、関心も示さない人々です。こういった人々の度量は、余りにも狭く、私たちの運動は、このような幅の狭い、小さな視野の人々の居場所ではありません。ワイズメンは、その視野という基準で測られることを恐れてはなりません。なぜなら・・・ワイズマンであることは、世界それ自身と同じ広さの視野を持つことであり、世界を志向することを意味します。

私たちの最も根本をなす理想のひとつは、ワイズのモットーにうたわれているように「強い義務感を持つ義務はすべての権利に伴う」ということです。このモットーが採用されたのは、私たちはともすれば、特にアメリカの市民は、私たちのさまざまな権利を完全に実行されることを要求する一方、こういった権利の基礎にある義務をないがしろにするという、見逃すことができない傾向を持っている故です。

このモットーについて、例を挙げてごく単純に説明することができます。大通りを運転中、交通信号が緑になっていると、そのまま交差点を走りすぎることができます。そこに交差している道を車が横切って衝突する心配がないからです。何故でしょうか。それは、交差する道の側では信号は赤になっていて、そこにさしかかった車は停止し、あなたの側の車に通行権を譲るからです。もし一方の道の信号が緑で、他方の信号が赤でないということが起こるとすれば、それは役に立たないどころではすみません。

それに対応する義務なしに、権利はあり得ません。一方の側での赤信号なくして、他方での緑があり得るとすれば、ものごとに左側なしに、右側だけがある、裏なくして表だけがあるというようなものです。

ある義務の承認と履行は、皆さんまたは、皆さんの権利を守ってくれます。人生のさまざまな交差点で、どこに権利があり、どこに義務があるのかを示す交通信号はめったにありません。ある領域においては、特に、社会的、道徳的、民族間、国家間において、多くの権利が叫ばれ、義務があいまいにされているのを見ます。義務があいまいだと、関心はほとんど自分の権利にのみ向けられることが常ですが、義務は、それにもかかわらず存在します。私たちのモットーは、権利の実行についてよりも、むしろ義務の確認と履行をもっと考えるように要求しています。私たちがしてもらえなことよりも、私たちがしなければならないことを、私たち自身についてよりも、他の人々のことにもっと目を向けることを要求しています。

ワイズマンであることは、義務は、すべての権利に伴うことを認めることです。

ワイズメンとして、まず果たしやすい義務は、例会に規則的に出席することです。もうひとつは、遅滞な

く金銭的な義務を果たすことです。これと同様に、果たしやすい義務は、沢山あります。大会に出席し、それに協力し、それについて報告すること、連絡事項には直ちに返事を出すこと、“Association Men”を読むこと等々です。

私たちの義務の中で最も重要なのは、クラブのすべての委員会活動および私たちの目的の達成のために企画されたすべての活動に参加することです。現在は、ほとんどすべての大陸の、12の国における160の都市で活発な活動を行っている2という私たちのクラブの高い水準は、ワイズメンによって成し遂げられた成果、提供された奉仕そして実際に達成された目的がもたらしたものです。私たちの国際委員会は、豊富な資料を配布して来ましたがこれに対しては、クラブに対して余りに多くの示唆を出しすぎ、負担をかけ過ぎだという批判もあります（しかしこの資料は、私たちにどのような活動の機会があるかを示すためのものでした）。しかし、実際に活動をするのは、委員会ではありません。委員会は、方法を示すだけのものです。活動を行うのは、メンバー一人ひとりなのです。

私たちの国際憲法には、メンバーの種類は、ひとつしかありません。すなわち「活動的なメンバー」だけです。メンバーとは、本当に活動する者という意味です。

古い格言に「始めよければ半ばの成功」というのがあります。何かを始めた者は、「希望的観測」による試みを始めただけで、結果として現実を甘く見たことに終わることが多いようです。何かを始めるのは、それほど難しいことではありません。しかし、それを継続し続けるのには、強い覚悟が必要です。時には頑張ることなら誰にも出来ます。しかし、計画したとおりの速さを守りながらそれを継続するには、スタミナが必要です。

ワイズマンは、単にスターターではありません。継続者でもあります。これには熱意が必要です。ワイズマンであるためには、熱意をもって活動することが必要です。

結論的に言うと、ワイズマンであることは、以下を意味します。

- (1) 理想主義者であること
- (2) YMCA に尽くすこと
- (3) 国際志向を持つこと
- (4) 自らの義務を見つけ、自らに課すこと
- (5) 熱意をもって行動すること

真に、ワイズマンであるということには特別な意味があります。皆さんは、それがどういうことかわかりと思います。そしてワイズマンであるということが、なぜ上述のような多くのことを意味するのかの理由もご存じでしょう。なぜかと言うと、私たちは町で最も排他的なクラブであるからです。つまり、クラブは、刺激的でやりがいのあるものであり、最も強く最も厳格な理想主義に対する私たちの主張をダイナミックに強調する手段だからです。

私の、ワイズメンすべてに対する願いは、以下のとおりです。

私たちの運動の核心、私たちの運動の存在価値は、この排他性、差異性にあります。私たちが、私たちの理想を持たない者、それを受け入れず、発展させない者、夢を追い求める意欲を持たないメンバーを受け入れたり、そういったメンバーをクラブに引き止めたりするために、排他性を捨て、敷居を低くするその瞬間、私たちは、1滴の猛毒を取り入れることとなります。その猛毒は、力を強め、広がり、浸透し、ついには私たちの全組織に死を意味する麻痺を引き起こします。今、ここで、私たちは、自らの心を探り、私たちは、メンバーであるという権利をまだ保持しているのかどうか、私たちが個人として、この排除の過程を恐れてはいないかどうかを確かめてみることをお勧めします。各自が、以前自分の中に奮い起こされたあの理想主義を幾分かでも失ってしまったのではないかどうかを自問してみましょう。

私は、YMCAと心を完全にひとつにしているのでしょうか。そうではなくて、私は逆行しているのでしょうか、誠実に状況を修正しようとしているのでしょうか。敢えて自分の視野の広さによる自分自身の測定に身をさらしてみてもどうでしょうか。他の人の権利がその上に乗っかっている自分の義務を排除する権利を考えたりしてはいないのでしょうか。私は、ワイズマンや働き手の「ナイフとフォーク」になっているのでしょうか—私は、熱情を持って活動しているのでしょうか。

自己犠牲によって表されるこの理想主義に対して、YMCAに対するこの忠誠に対して、この国際志向、この視野の広さに対して、この権利より義務についてのより大きな関心に対して、熱情的な活動をもって、私達のうちにおられる神様と共に、一人ひとりそして全員が、改めて自分自身を捧げようではありませんか1。

(翻訳、脚注：田中博之) 脚注は転載の際に割愛しました。

編集後記

令和2年5月号の川越クラブのブリテンをお届けします。

コロナウイルスによる新型肺炎の流行が止まりません。地球上のすべての地域に広がった疫病ですが、各国でその対応は様々です。リーダーとして手腕を発揮して尊敬を集め支持を得るリーダーもいれば、耳を疑う言動をしたリーダーもいます。長引く経済活動の停滞に、見切り発車ともとれる経済活動を再開したのではないかと思える国や地域の報道もあります。

5月末まで緊急事態宣言が延長される中、コロナ後の社会はコロナ以前の社会とは根本的に異なるのではないかと言われます。また、そのような社会にならざるを得ないのではないかと体感させられる状況でもあります。

このような状況の中で、3月、4月と中止した例会をネットミーティングの形で再開する方法を考えました。会員の皆様のご協力で、Zoomによる接続テストも成功し、5月例会は、お互いモニター越しではありますが、実施できる目処が立ちました。

今月号のブリテンには、アジア太平洋地域会長の田中メンが翻訳したポール・ウィリアム・アレキサンダーの講演を掲載しました。このような時期だからこそ、ワイズメンズクラブの理想主義を心にとめることも大切なかなと思います。

次回のブリテンでは、皆様の近況など、身近な話題も載せられると良いと思います。

では、例会でお目にかかれることを楽しみにしています。早くこの感染が収束して、活動が再開できることを祈っています。

利根川太郎